

令和 7 年度 事業報告書

社会福祉法人うめの木学園

1、利用者の状況

月	就労継続B型	生活介護	入所支援	うめの木ホーム	放課後等デイ
4月	746 名	1,129 名	1,281 名	180 名	184 名
5月	715 名	1,097 名	1,325 名	186 名	167 名
6月	753 名	1,182 名	1,319 名	166 名	174 名
7月	778 名	1,233 名	1,399 名	186 名	185 名
8月	654 名	1,001 名	1,413 名	183 名	151 名
9月	656 名	1,054 名	1,404 名	180 名	169 名
10月	790 名	1,242 名	1,441 名	186 名	174 名
11月	659 名	995 名	1,375 名	201 名	149 名
12月	728 名	1,068 名	1,376 名	213 名	169 名
1月	678 名	1,000 名	1,340 名	213 名	151 名
2月	655 名	935 名	1,233 名	196 名	151 名
3月	776 名	1,128 名	1,393 名	217 名	173 名
計	8,588 名	13,064 名	16,299 名	2,307 名	1,997 名
平均/日	32.0 名	48.6 名	44.7 名	6.4 名	7.0 名
前年度平均/日	29.2 名	49.9 名	44.8 名	5.9 名	6.6 名

月	支援センターうめの木		
	日中ショートステイ	宿泊ショートステイ	相談支援
4月	8 名	2 名	30 名
5月	8 名	3 名	25 名
6月	6 名	19 名	36 名
7月	10 名	0 名	37 名
8月	5 名	11 名	28 名
9月	7 名	0 名	24 名
10月	11 名	0 名	19 名
11月	8 名	4 名	18 名
12月	3 名	4 名	22 名
1月	6 名	16 名	17 名
2月	9 名	0 名	15 名
3月	4 名	3 名	15 名
計	85 名	62 名	286 名
前年度	63 名	61 名	323 名

2、行事報告

月	日	事業内容	備考
4	21	健康診断(入所のみ)	利43名
5	13～29	日帰り旅行(福井、富山外)	生活介護入所(少人数にて実施)
	22	BCP(感染症)研修兼訓練	
6		理事会	
	12	歯科検診	利83名
	20	お楽しみ会 ミュージカル鑑賞	大杉ミュージカルシアター
	24	理事会・評議員会	
	25	BCP(自然災害)研修	
	27	BCP(自然災害)机上訓練	
8	4	輪おどり	利85名
	20	BCP(感染症)研修兼訓練 ミュージックアカデミーミニコンサート	
9	8	避難訓練(火災想定)	日中活動中、通所棟のみ、夜間想定は3パターンで実施
	11～10/27	日帰り小旅行	生活介護通所(少人数にて実施)
	16	健康診断 ＜身体計測、血圧測定＞ ＜嘱託医健診、検尿＞ ＜血液検査＞ ＜心電図＞	利79名 対象…入所・通所全員 対象…入所・通所全員 対象…入所 対象…入所の40歳以上
10	6	日帰り小旅行	ワークセンター通所
	15	お楽しみ会 大正琴鑑賞	
	21	婦人科健診	22名
	28	胸部レントゲン	75名
	31	インフルエンザ・コロナ予防接種	
11	20	BCP(感染症)研修兼訓練	
	21	日帰り旅行(長野)	ワークセンター入所
	25	施設内研修(虐待防止兼介護技術)	石川県介護労働安定センター講師
12	9	施設内研修(虐待防止兼介護技術)	石川県介護労働安定センター講師
	17	干支入魂式(代表者のみ)	
	25	クリスマス会 歌謡ショー	紬の会
1	15	左義長	
	16	初詣(代表者のみ)	
	19	干支入魂式(代表者のみ)	
2	20	BCP(自然災害)研修	
3	12	避難訓練(火災想定)	休日、通所棟のみ、夜間想定は3パターンで実施
	18	地域連携推進会議	
	23	理事会	
	24	BCP(自然災害)訓練	

3、職員の研修状況

月	日	研 修 内 容	参 加 者
6	18	相談支援専門員及びサビ管導入研修	支援員 1名
	24.25	相談支援従事者初任者研修(オンライン)	支援員 1名
	27	認定調査員研修	サビ管 1名
7	17.18	北陸地区知的障害関係施設職員研究大会	支援員 4名
	25	BCP訓練研修(オンライン)	支援員 1名
8	1	障害施設リーダー研修	支援員 1名
	18.19	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
9	2	障害施設リーダー研修	支援員 1名
	9.10	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	支援員 1名
	10	安全運転管理者法定講習	サビ管 1名
10	8.9	OJT指導者養成研修	支援員 1名
	23	BCP訓練研修(オンライン)	支援員 1名
	27	高齢者施設等感染症予防研修	支援員 1名
11	11	感染症対策研修会	支援員 1名
	12.13	サービス管理者等更新研修	サビ管 3名
12	5.9	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
	8	地域・相談支援部会合同研修会	サビ管 1名
	11	虐待防止・権利擁護研修	支援員兼相談員 1名
	9.13	虐待防止・権利擁護研修	支援員 1名
	18	BCP訓練研修(オンライン)	支援員 1名
1	10.21	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
2	6	地域生活援助研修会	サビ管 1名 GH世話人3名
	24	小松市自立支援協議会児童部会研修会	児童指導員4名
3	4	観光(旅行)バリアフリー勉強会	支援員 1名
	5	副安全運転管理者法定講習	サビ管兼支援員 1名
		社会福祉経営者サポートセミナー(オンライン)	施設長 1名
	6	地域生活援助研修会	サビ管 1名 GH世話人3名
		南加賀障害者雇用セミナー	サビ管 1名
	17	小松特別支援学校進路連絡会	支援員兼相談員 1名

4、ボランティア受入状況

月	日	活 動 内 容	名 称 等
4	17	成人祝い写真撮影	&B STUDIO
7	15.18	アイス配付	〇和笑
11	5	大判焼配付	〇和笑

※村田理容店による出張散髪は、月2回来園していただきました。

※3B体操西崎氏、月1～2回来園していただきました。

※百年珈琲林氏、月1回来園していただきました。

5、施設視察・見学及び実習の受入状況

月	日	受 入 内 容	名 称 等
6	16～27	福祉施設現場実習	金城大学短期大学 2名
6	9～20	職場体験事業	小松特別支援学校 2名
6	23～7/4	職場体験事業	小松特別支援学校 2名
8	6～13	福祉施設現場実習	金城大学 1名
8	18～29	福祉施設現場実習	金城大学短期大学 2名
9	28～10/10	職場体験事業	小松特別支援学校 2名
10	14～17	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
10	14～22	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
10	20～31	福祉施設現場実習	石川県立保育専門学園 1名
11	10～21	福祉施設現場実習	石川県立保育専門学園 1名
2	12～3/10	福祉施設現場実習	金城大学 1名

6、地域連携推進会議の実施状況

令和8年3月18日、障害者支援施設並びにグループホームの会議を合同で実施。

※議事録を「資料1」として、本報告書末尾に添付。

7、補助事業の状況

①花苗補助金(小松市、小松市農業協同組合) 28,000円

8、学园内整備事業（自己資金による整備） ※100万円以上掲載

① スチームコンベクションオーブン（厨房用）	2,453,000円
② パソコン入替	2,178,000円
③ ボイラー室給湯タンク修理一式	1,138,500円
④ ランサムウェア対策ソフト（5年分）	4,116,552円
⑤ 業務用食器洗浄機（厨房用）	1,190,200円
⑥ デマンド監視システム更新	1,454,970円
⑦ 軽自動車（Nワゴン・中古）	1,480,000円
⑧ 軽自動車（Nバン・新車）	1,680,000円
⑨ 本館屋上避難通路設置（アスベスト除去対策含む）	3,410,000円
⑩ 多目的棟受水槽用ポンプ交換	1,243,000円
⑪ ワークセンター児童トイレ改修	1,133,000円
⑫ 男性棟業務用洗濯乾燥機入替	3,740,000円

9、苦情解決制度利用状況

今年度該当なし

10、事故報告状況

分 類	件数	備 考
交通事故	1件	
興奮・他害・自傷	6件	
転倒・転落	31件	実人数17人
誤薬	6件	
内、落薬	2件	
不適切行為	2件	
その他	4件	・送迎ミス
合 計	50件	

11、地域における公益的な取り組み

(1) 施設の地域開放

- ① 小松市との間で『福祉避難所として民間社会福祉施設等を使用することに関する協定』を締結
- ② 石川県立小松特別支援学校に駐車場を提供（行事等に際し）
- ③ 石川県立小松特別支援学校にミニコンサート会場として体育館を提供

(2) 地域づくり活動

- ① 限界集落になっている地元町内の公民館等周辺の草刈り及び除雪
- ② 高齢化が顕著になりつつある稲作農家に対し、低料金にて、育苗箱の引き取り、洗浄、JAへの返却を代行
- ③ 地域行事の際のテント貸し出し、職員派遣、物品販売の協力

(3) 実施している社会福祉事業の延長上の活動

- ① 生活困窮利用者(通所)の食費免除

(4) 実施している社会福祉事業を受け皿とした公益的活動

- ① 障害者手帳を有する職員3名を雇用

(5) 社会福祉の向上に向けた活動

- ① 福祉系大学・短大及び専門学校からの実習希望者を積極的に受け入れ
- ② 社会福祉協議会等が実施する福祉の仕事体験希望者を積極的に受け入れ
- ③ 地元の特別支援学校生徒の実習及び職場体験の積極的受け入れ

(6) その他の活動

- ① ペットボトルのキャップをワクチンに交換する事業(エコキャップ運動)に協力
- ② 公益財団法人が実施している義援金活動に協力（職員による100円募金）

12、職員の処遇改善実施状況

以下の公的支援を受け、職員の賃金改善を実施。

- ①福祉・介護職員処遇改善加算Ⅰを取得（※一部の事業は、加算Ⅱ）
- ②障害福祉人材確保等事業補助金を取得
- ③障害福祉従事者処遇改善緊急支援事業補助金を取得

※上記の取得において求められる「職場環境要件」に対する取り組み状況について、「資料2」として本報告書末尾に添付

13、放課後等デイサービス事業における自己評価の実施

放課後等デイサービス事業について、管理者と現場職員それぞれの視点から自己評価を行いました。

評価結果については、「資料3」として本報告書に掲載し、これをもって公表することとします。

また、自己評価と併せて、保護者にもアンケート調査という形で評価を依頼しました。結果については、集計の上、書面にて保護者にお伝えしました。

地域連携推進会議 議事録

社会福祉法人うめの木学園

- 開催日時 令和8年3月18日 13:30～15:45
- 開催場所 うめの木学園多目的棟2階
- 参加者 12名
 - 入所施設利用者 2名 入所施設利用保護者 1名
 - グループホーム入居者 2名 通所施設利用保護者 2名
 - 地域代表者 1名 行政担当官（小松市）1名
 - 法人担当者 3名（理事長 施設長 副施設長）
- 会議の内容
 - （1）事前説明等
 - ①理事長あいさつ
 - ②本日のタイムスケジュール説明
 - ③参加者紹介（自己紹介を含む）
 - （2）グループホーム見学
 - （3）障害者支援施設うめの木学園見学
 - （4）事業の概要説明
 - ◇障害者支援施設うめの木学園
 - ①利用者数の推移 ②行事の実施状況
 - ③実習の受入れ状況 ④ヒヤリ・ハット、事故報告の状況
 - ⑤虐待防止対策 ⑥災害対策
 - ⑦苦情解決制度の活用状況 ⑧地域における公益的な取り組み
 - ◇グループホーム
 - ①職員の状況 配置、勤務時間、職務内容
 - ②利用者の状況 日課・活動、休日の様子、健康管理・受診、買物
- 参加者からの意見・要望等
 - *職員の目が十分に行き届いていない時がある。【利用者より】
 - *保護者会活動の再開を願っている。【保護者より】
 - *グループホームのバックアップ体制や防火設備が充実しており、家族の立場として安心できると感じた。【保護者より】
 - *地元の消防分団と学園との交流を考えてみたい。【地域代表より】
 - *虐待防止についてしっかりした体制が作られており、会議や研修等の取り組みも適切に実施されていると感じた。【行政担当官】

以上

職場環境等要件に対する取り組み

区 分	内 容	取り組み状況
入職促進に向けた取組	○ ①法人や事業所の経営理念や支援方針・人材育成方針、その実現のための施策・仕組み等の明確化	* 法人理念、行動規範、各種指針を明示 * 年度ごとの事業計画書に採用方針を記載
	○ ②事業者の共同による採用・人事ローテーション・研修のための制度構築	
	○ ③他産業からの転職者、主婦層、中高年齢等経験者・有資格者にこだわらない幅広い採用の仕組みの構築（採用の実績でも可）	* 採用の際は、前歴・経験・年齢等の条件を付さず、幅広い人材を雇用している。 （実績多数）
	○ ④職業体験の受入れや地域行事への参加や主催等による職場魅力向上の取り組みの実施	* 社協等に対し福祉の仕事体験の受入れについて応諾の書類を提出 * 実習学生の受け入れを積極的に実施
資質向上やキャリアアップに向けた支援	○ ⑤働きながら国家資格等の取得を目指す者に対する研修受講支援や、より専門性の高い支援技術を取得しようとする者に対する各国家資格の生涯研修制度、サービス管理責任者研修、喀痰吸引研修、強度行動障害支援者養成研修等の業務関連専門技術研修の重厚支援等	* 対象者の勤務の弾力化 * 資格取得時の祝金制度 * 資格手当の支給範囲を拡充し、資格取得の動機づけとしている
	○ ⑥研修の受講やキャリア段位制度等と人事考課との連動によるキャリアサポート体制等の導入	
	○ ⑦エルダー・メンター（仕事やメンタル面のサポート等をする担当者）制度等の導入	* OJTチームによるサポート体制を構築
	△ ⑧上位者・担当者等によるキャリア面談などキャリアアップ・働き方等に関する定期的な面談機会の確保	* 不定期ではあるが、実施
両立支援・多様な働き方の推進	○ ⑨子育てや家族等の介護等と仕事の両立を目指すための休業制度の充実、事業所内託児施設の整備	* 「育児短時間勤務」について、対象者の実情に応じた弾力で運営を実施
	○ ⑩職員の事情等の状況に応じた勤務シフトや短時間正規職員制度の導入、職員の希望に即した非正規職員から正規職員への転換の制度等の整備	* 対象者の働きぶりを評価した上で、非正規から正規職員へ転換（複数実例あり） * 対象者の働きぶりを評価した上で、短時間正職員に登用（複数実例あり）
	○ ⑪有給休暇を取得しやすい雰囲気・意識作りのため、具体的な取組目標（例えば、1週間以上の休暇を年に●回取得、付与日数のうち●%以上を取得）を定めた上で、取得状況を定期的に確認し、身近な上司等からの積極的な声掛け等に取り組んでいる	* すでに有給休暇を取得しやすい雰囲気・意識づくりは出来上がっており、その点をアピールポイントにしつつ、取得状況の定期的な確認を実施 * 実際に、希望休が取れるようシフトの配慮等に取り組んでいる
	○ ⑫有給休暇の取得促進のため、情報共有や複数担当制により、業務の属人化の解消、業務配分の偏りの解消に取り組んでいる	* 業務改善検討委員会を設置し、職員の負担軽減、業務の効率化を目指し、業務の見直しに着手している。
	○ ⑬障害を有する者でも働きやすい職場環境の構築や勤務シフトの配慮	* 障害を有する職員について、上司による声掛けを頻繁に行い、当人の希望する働き方に配慮
腰痛を含む心身の健康管理	○ ⑭業務や福利厚生制度、メンタルヘルス等の職員相談窓口の設置等相談体制の充実	* 職員の病気・怪我等に備えた保険に加入、電話による健康サポートサービスが付加されており、「健康相談」「メンタルケアカウンセリング」「がん治療と仕事の両立支援サービス」等が受けられる。また、スマートフォンを利用して、チャットでも同様のサービスが受けられる体制を作っている

区 分	内 容		取り組み状況
腰痛を含む心身の健康管理	△	⑮短時間勤務労働者等も受診可能な健康診断・ストレスチェックや、従業員のための休憩室の設置等健康管理対策の実施	* 職員休憩室の設置を準備中
	○	⑯福祉・介護職員の身体の負担軽減のための介護技術の修得支援やリフト等の活用、職員に対する腰痛対策の研修、管理者に対する雇用管理改善の研修等の実施	* 介護技術研修を実施 * 雇用管理者の研修を実施 * 機械浴、いす式階段昇降機、昇降電動ベッド等の導入
	○	⑰事故・トラブルへの対応マニュアル等の作成等の体制の整備	* 事故対応マニュアルの整備
生産性向上のための取組	○	⑱現場の課題の見える化（課題の抽出、課題の構造化、業務時間調査の実施等）を実施している。	* 業務改善検討委員会を設置し、現場業務の課題抽出に着手している
		⑲5 S 活動（業務管理の手法の1つ。整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭文字をとったもの）等の実施による職場環境の整備を行っている	
	○	⑳業務手順書の作成や、記録・報告様式の工夫等による情報共有や作業負担の軽減を行っている。	* 些細なヒヤリ事項を「事故報告」として取り上げ、情報共有と再発防止に努め、その結果として業務負担軽減につなげている。
	○	㉑業務支援ソフト（記録、情報共有、請求業務転記が不要なもの）、情報端末（タブレット端末、スマートフォン端末等）の導入	* 記録システム、請求管理システムの導入 * WiFi環境を拡張し、パソコンの台数を増設することで、記録・請求業務の効率化を実現
	○	㉒介護ロボット（見守り支援、移乗支援、移動支援、排泄支援、入浴支援、介護業務支援等）又はインカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資するICT機器（ビジネスチャットツール含む）の導入	* 機械浴の導入 * 見守りカメラ、センサーマットを導入し、使用可能範囲の拡張工事を実施
	○	㉓業務内容の明確化と役割分担を行い、福祉介護職員が支援に集中できる環境を整備。特に、食事等の準備や片付け、清掃、ベッドメイク、ゴミ捨て等の業務については、間接支援業務に従事する者の配置や外注等で担う等役割の見直しやシフトの組み換え等を行う。	* 給食に関する業務は外注 * その他の間接業務について、高年齢者雇用による職員を配置し、役割分担を行っている
やりがい・働きがいの醸成		㉔各種委員会の共同設置、各種指針・計画の協働策定、物品の共同購入等の事務処理部門の集約、共同で行うICTインフラの整備、人事管理システムや福利厚生システム等の共通化等、協働化を通じた職場環境の改善に向けた取組の実施	
	○	㉕ミーティング等による職場内コミュニケーションの円滑化による個々の福祉介護職員の気づきを踏まえた勤務環境や支援内容の改善	* サービス管理責任者会議、各種委員会の設置、各班ごとのミーティング等を定期的に実施し支援内容等の改善に努めている
	○	㉖地域社会への参加・包容（インクルージョン）の推進のための、モチベーション向上に資する、地域の児童・生徒や住民との交流	* 花壇づくり * 福祉の店「夢や」への参画 * 作業を通じた地域交流
	○	㉗利用者本位の支援方針など障害福祉や法人の理念等を定期的に学ぶ機会の提供	
	○	㉘支援の好事例や、利用者やその家族からの謝意等の情報を共有する機会の提供	* 保護者からの情報（謝意、家庭での状況など）については、必ず日誌に記入し、情報共有している。

公表用

放課後等デイサービス自己評価表

令和7年度分

		チェック項目	管理者 の観点	現場職員 の観点	分 析 結 果
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○	○	個別ブース、広い活動場、休憩できる部屋等、用途に応じた部屋を完備している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○	○	正職員の割合が50%を超え、職員体制がより充実した。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○	△	車いすで利用可能な設備に改修済みである。(一部は簡易スロープ設置)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○	△	月1回の会議や個別の意見交換等、職員が参画できる体制になっている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	○	年度末のアンケート調査により意向確認し、必要に応じて意見を取り入れている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	○	毎年、事業報告書に記載している。事業報告書はホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	×	×	第三者評価は実施していない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	○	市自立支援協議会の部会に参加。
適切な 支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○	○	保護者への聴き取りは時間を掛けて行っている。ニーズや課題を計画に反映させている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	×	×	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	△	それぞれの職員が得意分野を活かしながら、画一的な活動にならないよう工夫している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	△	同上
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○	△	普段は個別活動が中心になるが、長期休暇時は集団活動を意識したプログラムを取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	△	△	同上
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	△	△	日ごとの利用児童はほぼ固定なので、役割分担はあらかじめ決まっており、情報共有も行われている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	△	△	支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	△	月1回の会議により課題検証している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○	○	定められた期間で定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	△	△	ガイドラインを参考にしながら、児童の状況に応じた工夫をしている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	○	児発管又は担当職員が参画するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○	○	特別支援学校と隣接しているという立地条件を活かし、情報交換を行っている。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	—	—	受入れ実績なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○	△	必要に応じて保育・幼稚園等との情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	○	○	求めがあれば、必要な情報提供をしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	△	△	専門機関と連携し、困難ケースの助言を受けた実績がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	×	×	現状では難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○	△	時間が合えば必ず参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	○	連絡帳のほか、TELやメール、また送迎時に直接伝える等、共通理解を図れるよう努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	×	×	現状では、そこまでの余裕がない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	○	契約時に必要な説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	○	相談しやすい雰囲気づくりに心がけている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	×	×	前大会を望む声は少ない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	契約時に苦情受付制度の説明をし、要望や苦情に対して適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	△	○	活動概要は連絡帳で詳しくお知らせするほか、行事予定は定期的にお便りを発行している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○	○	職員採用の際に、誓約書を徴取している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	△	誤解が生じないよう十分配慮している。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	△	×	法人として、脱コロナを目指して、地域交流について段階的に以前の状態に戻せるよう検討している。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	△	△	事務所に備え付けている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	○	定期的に実施するほか、夏休み期間に実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	○	年1回以上、法人内研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	—	—	該当児童はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	—	—	食事提供はしていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	○	積極的にヒヤリハット報告を活用するようにしている。

○ …はい

△ …どちらともいえない

× …いいえ

— …該当なし